

2025年日本国際博覧会 トイレ8



外観

日本国際博覧会において、若手建築家が設計したトイレ施設のひとつ「トイレ8」。個性的な外観のもと、男性ゾーン、女性ゾーン、2ヶ所のオールジェンダーゾーンとバリアフリースペースで構成される。



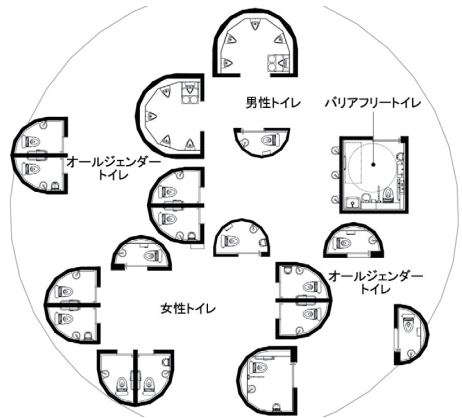
案内図

案内図はわかりやすいピクトグラムを用い、ひと目で全体像・仕様を理解することができる。英語と日本語の2ヶ国語表記とし、さらに、トイレの建築としてのコンセプトも掲示している。



女性トイレ 全体

8ヶ所の個室トイレからなる女性ゾーン。各トイレ入口には、配慮対象者と備えている設備をピクトグラムで掲示している。



女性トイレ
大便器ブース



ブース内に手洗器を設置した個室完結型の女性トイレ。棟の中で一番高く、約11mの天井高を備えた特長的な空間となっている。



男性トイレ 全体

半円形の個性的な複数の棟からなる男性ゾーン。3ヶ所の大便器ブースと2ヶ所の小便器コーナーを配置している。一角にベンチを設けることで、休憩や待ちスペースとして多様な使い方ができる。



男性トイレ
小便器コーナー

複数の小便器を、建物形状にあわせ半円形に配置した小便器コーナー。小便器は、節水性と清掃性のよい壁掛型の自動洗浄小便器を採用。荷物配慮として、小便器の間にフックを設けている。



バリアフリースペース

十分な広さを確保したバリアフリースペースには、車いす使用者やオストメイト、大型ペット使用者、お子様連れなど、多様な利用者に配慮した器具を完備している。



オールジェンダートイレ
全体

分散して配置されたオールジェンダーゾーン。こちらは、性別を問わずに利用可能な3ヶ所の大便器ブースを用意している。



オールジェンダートイレ

分散して配置されたオールジェンダートイレのうち1ヶ所は、車いす使用者やお子様連れに配慮した器具を完備している。

図面

多様な利用者に配慮し、男性ゾーン、女性ゾーン、2ヶ所のオールジェンダーゾーンとバリアフリースペースを配置している。

水まわりの特長

建物の特徴

5年に一度世界1ヶ所のみで実施される国際的イベント「国際博覧会」が大阪市内の夢洲（ゆめしま）で開催。会場内の休憩所やトイレなど計20施設を、公募型プロポーザルにて若手建築家が設計。「トイレ8」の設計コンセプトは、さまざまな文化や国籍にルーツを持ち「ここ」と「からだ」の性や個性も多様化している今を生きる人々を見つめること。従来の標準とされた「人間」をモデルに作られた「建築計画」を一度解体し、現代におけるあたらしい「かた」（typology）から建築を考える必要があるのではないかと問う。視覚・聴覚障がいや車いす使用者とワークショップを行い、個性ある異なるもの同士の総体が、へだたりながらもひとつながりの群となる風景を目指したトイレが完成した。

トイレの特長

特徴的な半円形建物を主体とする複数のトイレ棟で構成された「トイレ8」は、多様な利用者に配慮し男性ゾーンや女性ゾーン、2ヶ所のオールジェンダーゾーンとバリアフリースペースから構成。各トイレは、ブース内に手洗器を設置し、用足しから手洗いまで完結できる個室完結型としている。器具は、パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式やウォシュレットアプリコットP、自動洗浄小便器を採用し、衛生面と利便性に優れた空間を実現。オールジェンダートイレのうち1ヶ所は、車いす使用者やお子様連れに配慮した器具を完備。バリアフリースペースには、さまざまな身体状況に対応できるコンパクト・バリアフリースペースパック、収納式多目的シートも完備し、多様な利用者に配慮している。

建築概要

名称	2025年日本国際博覧会 トイレ8
所在地	大阪府大阪市此花区夢洲中1-1-20 (2025年日本国際博覧会会場内)
施主	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
設計	斎藤信吾+根本友樹+田代夢々／ 斎藤信吾建築設計事務所+Ateliers Mumu Tashiro
竣工年月	2025年3月
延床面積	56.19㎡
構造・階数	木造、一部鉄骨造・地上1階
おもなTOTO使用機器	
パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498B	
ウォシュレット アプリコットP(擬音装置「音姫」付きエコリコモコン):TCF5831AUP	
自動洗浄小便器:UFS900WR	
コンパクト・バリアフリースペースパック:UADAK21L1A1AD*2B	
収納式多目的シート:EWC520AR系	